



樹木いきいき講座 <その5> 3班 藤原満男



子どもたちが小学生だった頃、島根の県境の農家の親戚で田植えや稲刈り雪遊びなど田舎暮らしをさせてもらっていました。その家のイチジクの剪定に窮した事を覚えています。主幹がどれなのかははっきりせず、ひこばえが20本余り。すべて2メートル程。ひこばえを放って置くと幹の力が弱くなるし、見栄えが悪いのですが、伯父は収穫第一。最終的にひこばえを数本間引きコンパクトにしました。剪定を始める前には、目的や目標、大きさや形、仕上がりのイメージを明確にしておく必要があります。

モミジ類、カンキツ類、サクラなどと同じく、イチジクもカミキリ虫の被害を受け、枯れることが多いのです。対策として、地際から50センチ以上を、石灰又は薬剤塗布又はネットで覆います。カミキリムシは樹幹内で幼虫(テッポウムシ)の形で越冬するので、木くず状の糞を排出している食入孔(穴)を見つけたらクリップを伸ばしほじくり出します。腕の太さでも、イチジクは挿し木が出来ます。水の管理(やり過ぎると根腐れ、足りないと萎れ、いずれも枯れます)が出来れば普通の土で大丈夫です。

